

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 70 号	2007年5月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月6日（日）会員21名と車地応援者1名計22名にて下記活動が出来ました。
 - ① 水路の草刈と溝泥上げ ② 椎茸ホダ木の整理
 - ③ 田植えしろ縄の寸法取り修正 ④ 蓮田のエコアップ
 ※水車水路の補強と目詰まり修復

- 5月19日（土）午前、会員19名によって幼鳥時の合鴨の小屋と蓮池には防護柵を製作しました。防護柵で“あでもないこうでもない”と楽しく協議しながら、より良い飼育が出来るように手直ししながら作りました。合鴨の幼鳥がかわいく蓮池で泳ぐ姿が目につかびます。

- 5月19日（土）午後の里山自然観察隊は虫こぶ探しでした。虫こぶは主に樹木の葉や芽に出来るので木の名前を調べて木に名札を付けました。隊員25名、保護者19名、指導会員14名で昭和山を歩きました。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎ 見学者
 - 見学者案内依頼 6月2日または9日 子どもエコクラブ 案内要
 - その他 事務局に連絡が有りましたが案内が不要な団体は自由に見学して頂く様申し上げました。

- ◎ 行事
 - 5月28日（月） 中国電力（株）宇部電力所さんボランティアによる須賀河内川葦刈り取り
 - 6月 3日（日）（第一日曜日）保全活動（草刈、エコアップ）
 - 6月12日（火） 善和園による ビオトープ全域の草刈ボランティア
 - 6月16日（土）（第三土曜日）田植え、里山自然観察隊（昆虫）

3. 来訪者の声 （東屋のノートより一部抜粋）

5月4日 誘われて来て見ました。都会に住んでいる訳ではありませんが昔を思い出させてくれる何かを感じました。鶯が鳴いて何とどのかななのでしょう。カエルも鳴いて他の雑音がしないのいいですね。高速道路の何十キロ渋滞なんて夢のような・・・・

小さいお子さん連れの家族がいれば何かの勉強になるんじゃないでしょうか？

私達以外に誰もいらっしやいません・・・もったいない これからもご尽力お願いします。

H19, 5, 11 小羽山の方から立ち寄って見えています。今度、お弁当を持って来たいと思いました。

5月20日 子どもを連れて来ました。子どもは家の庭にミニ・ビオトープを作ろうとしていて（昆虫図鑑に書いてあったので）参考にという訳でもありませんが本当のビオトープ見せてやろうと思ひまして。 大変喜んであちこちの絵を書いています。季節ごとに来て見たいですね。 （子どもさんから） いえにミニビオトープをつくるのでみにきました。

来訪者の期待も大きく、心和むビオトープとして「つくる会」も気が引き締まる思いです。又、念願のトイレも出来ました但基本的には一次集会場所のトイレを利用いただき、ビオトープにあるものは緊急時という事でお願いします。またやむなく利用される方はマナーを守って頂き何時までもトイレが存続できるようお願いします。つくる会では2回／月で汲み取り清掃をします。

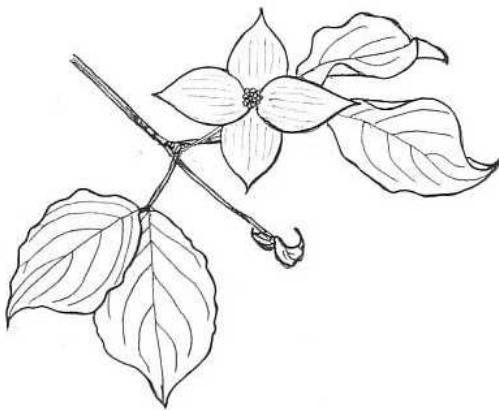
4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ヤマボウシとエゴノキ

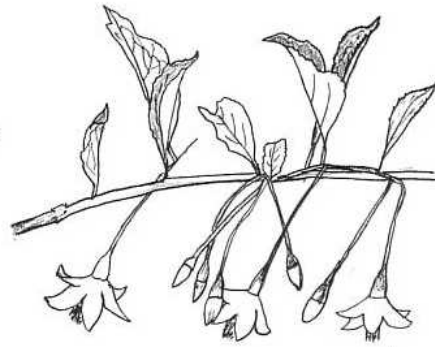
5月に咲く花は白い、とよく言われます。この季節、ウツギ、ニセアカシア、ノイバラなど、木の花はどれも白い花が多く、春先にピンクや黄色の花が多いのと好対照をなしています。木々の緑が次第に深まっていく中で、目立つのは白い花だからでしょうか。その中でもこの季節を代表する白い花が今回ご紹介するヤマボウシとエゴノキです。

ヤマボウシは、山法師と漢字で書きますが、それは4枚の花びらに見える総包片が山法師の頭巾に似ているからです。中央の丸い部分が花がたくさん集まってできている花房で、秋にイチゴのような赤い実になります。これをよく見ると、サッカーボール状に実が集った集合果であることがわかります。この実は生食でき、10月の観察隊の時には子どもたちにもおなじみです。花がよく似ている庭木のハナミズキは、北米原産の近縁種で、ワシントンに送られたソメイヨシノの返礼として日本に送られてきた話はよく知られています。総包片の先が丸くへこんでいるのがヤマボウシとの違いで、咲く時期もサクラと同時期ですから、あまり間違えることはないでしょう。ハナミズキはその名のヒット曲もあるように、知らない人はないと思いますが、ウドンコ病に弱く、このごろは日本原産のヤマボウシが見直されて、身近なところに植えられているのを見る機会が増えました。ビオトープ周辺では、須賀河内川沿いの斜面で多く見ることができます。数年前、花の咲いている木の数を数えたら、50本以上ありました。こんなに密度高くヤマボウシの木が自生している場所は他にないので、二俣瀬の木をひとつ選ぶとすれば、私はなんと言ってもこのヤマボウシを第一の候補に上げたいところです。ヤマボウシは葉の上に花を咲かせるので、遠くから見た方がよく目立ちます。これに対し、エゴノキは花が垂れ下がって咲くので、木の真下で見上げると花がよく見えます。葉の上で咲くか下で咲くかの違い、これは多分送粉者が違っているのではないかと思います。ヤマボウシは多分、蝶が送粉者でしょう。一方、エゴノキの花にはたくさんのクマバチが集まってきていました。蝶とハチ、だれに花粉を送ってもらうかで、このように花を愛でる角度が違うのも興味深いところです。

エゴノキはその実がえぐいことからその名前が来ています。このえぐみのもとはエゴサポニンという配糖体で、有毒物質です。溶血作用があり、のどや胃の粘膜がただれるので危険だと言われていますが、私は以前知らずにこの実1個を食べてしまったことがありましたが、別にどうということはありませんでした。秋にの実をヤマガラがつついて食べているのをよく見ますし、昔、泡立つことから石鹼の代わりに使われたりしたということですから、ものすごく毒性が強い、というわけでもなさそうです。しかし、一方エゴサポニンは魚のえら呼吸を止め、呼吸麻痺になるのを利用して、川魚漁に使われていたというのも事実ですから、有毒であることに間違いはありません。エゴノキの材は、緻密で粘り気が強く、工作しやすいので、お椀やこけし、将棋の駒などの細工物や彫刻材に用いられています。そのため、別名をロクロギなどとも呼ばれています。印象的に咲く白い花や、実、材に至るまで、人の暮らしと密接に関係した樹木であることがわかります。



ヤマボウシ（ミズキ科）



エゴノキ（エゴノキ科）

5. 会員の声

「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会に参加して・・・」 (小田 臨 記)

「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」に参加して4ヶ月ほど経ちました。ビオトープは以前から興味がありましたが、なかなかボランティアなどに参加するきっかけがありませんでした。会社の仕事はというと計量業務が主なので、ビオトープとはなかなか縁がありません。しかし、会社の研究開発でビオトープをしてみないかというのがきっかけで、「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」に参加させていただくこととなりました。

参加してみて思ったことは、ボランティアに参加する人が多いということです。毎回多くの人が集まることによって、いろんな作業ができるようになります。そのため、立派な里山を維持できていると思いました。また、自然観察隊など子供たちの教育の場所によく利用されており、それだけいい環境がそろっていると思いました。

私はビオトープ管理士2級(計画部門)を持っています。が、奇跡的に受かったに過ぎませんので、現場のことはさっぱりわかりません。植物もさっぱりわかりません。ですから、「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」に参加することで、いろいろなことを楽しく勉強していきたいと思います。よろしく願いいたします。

※小田会員は平成19年3月に入会され、お仕事の関係上ビオトープの研究もしたいと張り切っておられます。先々月(68号)に投稿いただいた吉崎会員も心同じくしておられます。両会員の今後の活動と研究に期待いたします。

6. 里山自然観察隊 (5月19日、隊員25名、保護者19名、会員14名)

虫こぶ探し

今回、初めての企画として虫こぶ探しをしました。さすが子ども達、次々に見つけては質問攻めです。最初に写真と実物で説明しておいたので、分りやすかったかなと思いました。最初の時の樹木の名札も古くなり、読めないものもありましたので、今回樹木の名前を調べて書いて取り付けてもらいました。前班と後班に分けて昭和山に入ったのですが、主に前班は鉄塔からのビオトープの下り道に札を付けてもらいましたが、樹木が限られていた(案内者もよく分っていない)し、虫こぶに比べて興味も少ないのか、急ぎ足でビオトープへ、ビオトープでは魚や昆虫を追っかけていました。後班は全員名札を付けられたとの事、さすが美濃和さん、ご指導恐れ入ります。今日、見つけた虫こぶは

1. サクラハチヂミフシ
2. コナラメリングフシ
3. クロキハマキカイガラフシ
4. カキハベリマキフシ
5. ハギハフクレフシ? (葉の裏に袋)
6. クリメコブズイフシ
7. コナラハマキフシ?
8. コナラハウラタマフシ?
9. ヌルデミミフシ
10. エゴノキハヒラタマルフシ?
11. ツツジハフクレフシ?

(西原 一誠 記)

7. 会よりの連絡事項

- 1) 広報字部 7 月 1 日号にて当会の紹介記事の依頼あり (UNCCA より)、提出しました。
- 2) 合鴨のひな購入先を決定し、5 羽ほど注文しました。
- 3) 新入会員のお知らせ
 - ・清家太八さん 車地在住 「きんしゃい」 商店主
 - ・原田敏甫さん 車地在住 以前より再三応援の実績有り
- 4) 19 年度会費未納者の方
 - ・お名前は公表しませんが、未納者は早急に納めてください。会計係りも大変です。

8. 編集後記

編集後記というよりお知らせです。

昨年総会時 関根会員より新規事業の中で合鴨飼育の話がでました。その総会時は皆さまの総意が諮れなかったのですが、個人的にいろいろ調査を行なった結果、何とか出来るでは無いかと思っていましたが、今年の総会でまたも、猪などの害獣防護策や合鴨農法の意見が出て再調査との結論になりました。幸い「やまぐち県民活動きらめき財団」のジャンプアップ助成金の一部を合鴨農法の資金に転用可能の了解を受け早速計画の進行となった訳で、雛を購入し、5 月第三土曜日の活動日にあわせ幼鳥時の防護網、小屋用材料の仕入れを行なって製作に入りました。

何人かの意見を聞きながら計画しましたが、更に製作当日にいろいろの意見が発せられ、より良い防護柵を作ることが出来ました。

今後は雛の受け入れを 6 月 18 日に行ないトレーニングを 6 月末までに済ませるつもりです。したがって田んぼへの放鳥は 7 月初めとなりますので、16 日田植えのあと苗もある程度活着した時期の 7 月 1 日 (第一日曜日) 田んぼ側の防護柵を設置する事になります。

かわいい合鴨の雛が泳ぎまわったり、雑草をついばんだりしている姿は更に里山の和みになるものと期待しています。

(原田 満洲夫 記)